



授業の技 その② 「板書」

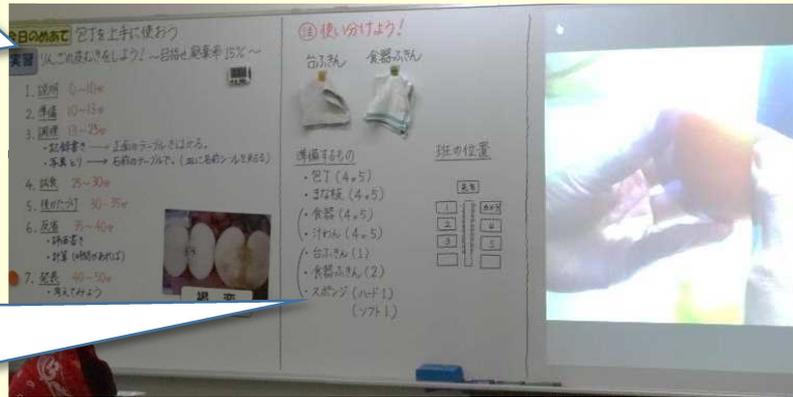
1時間の学習の内容や流れが一目でわかる

①子どもが、この1時間で何をすればよいのかがわかる

【中学校 技術・家庭科（家庭分野）】

- ◆今日のめあて
- ◆学習内容
- ◆実習の流れと時間の目安

- ◆留意点（布巾の区別について）
- ◆準備するもの
- ◆座席、皮を剥いたリンゴの写真の撮影場所の指示



淀江中学校の実践

始業前から、子どもが本時の学習の見通しを持つことができ、説明も短時間でできます。

- ◆学習のめあてと内容をパワーポイントで説明
- ◆実習のポイントや終わった後にすること（写真撮影、片付け等）を動画で繰り返し提示

②子どもが、考えるための手がかりや具体的な方法がわかる

【小学校 算数】

- ◆課題提示後の、解決の見通しをもつ場面における児童のつぶやき

- ◆多様な解決方法がわかる図
- ◆子どもの発表でポイントとなる言葉や式



県外の実践

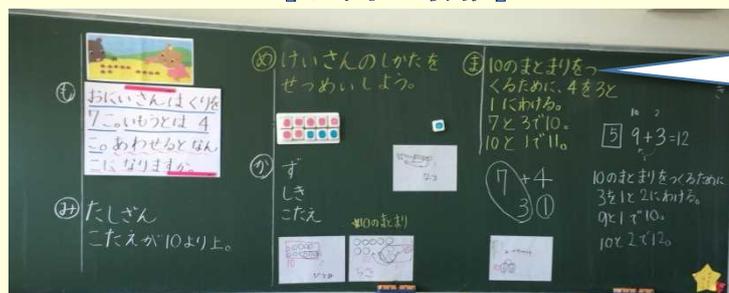
ネームプレートの活用

T1 は子どもの考えをつなぎ、T2は子どものつぶやきや発表の中でポイントになる言葉や式を黄色で板書していきました。T1とT2の役割を明確にすることで、より効果的な指導が期待できます。

③子どもが、1時間で何を、どのように学び、何ができるようになったのかがわかる

【小学校 算数】

子どもの実態や発達段階に応じて、教師がまとめの言葉を提示するのではなく、子どもと一緒にまとめていくことも大切です。子ども自身が「できた・わかった」と実感することが、次時への主体的な学びにつながります。



福生東小学校の実践

- ◆「本時のめあて」に対応した「本時のまとめ」



授業の後に、隣の学級の黒板を見せてもらいましょう。授業のポイントや子どもの発表内容は、今後の指導の参考になります。また、学年・教科は異なっても、お互いの板書を見合うことで、校内授業研究で目指している授業づくりの方向性に沿っているかどうか、検証することもできます。